

# 震災・まちのアーカイブ

---

震災・まちのアーカイブ

佐々木和子

## 「震災資料」の誕生

---

1995年 「ボランティア」元年

⇒ ボランティアの活躍

- ・ 「ボランティア」のコーディネート団体の誕生

ボランティアが自身の記録を保存

➡ 「震災・活動記録室」

- ・ 「分際」を越える活動(外岡秀俊『地震と社会下』1998)

歴史資料保全情報ネットワーク(史料ネット)

➡ 神戸大学震災文庫 など

# 1995年 震災記録の保存活動

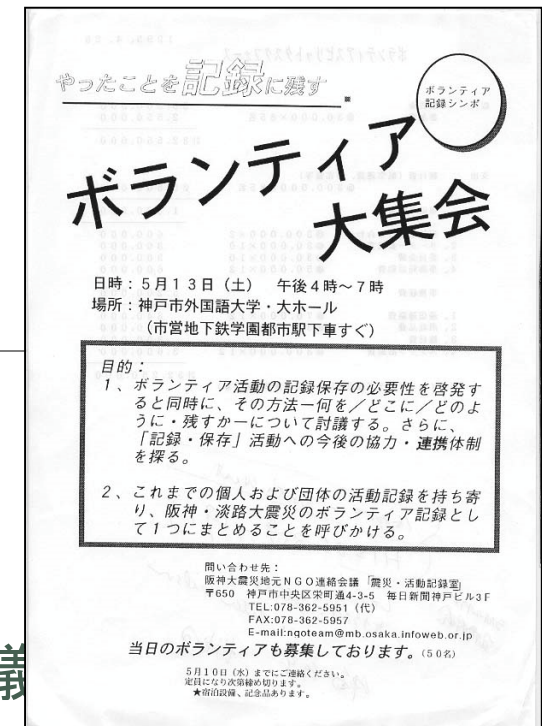
## □「震災の記録」を残そう

1月19日 阪神大震災地元NGO救援連絡会議

3月27日 震災・活動記録室



5月 やったことを記録に残すボランティア大集会



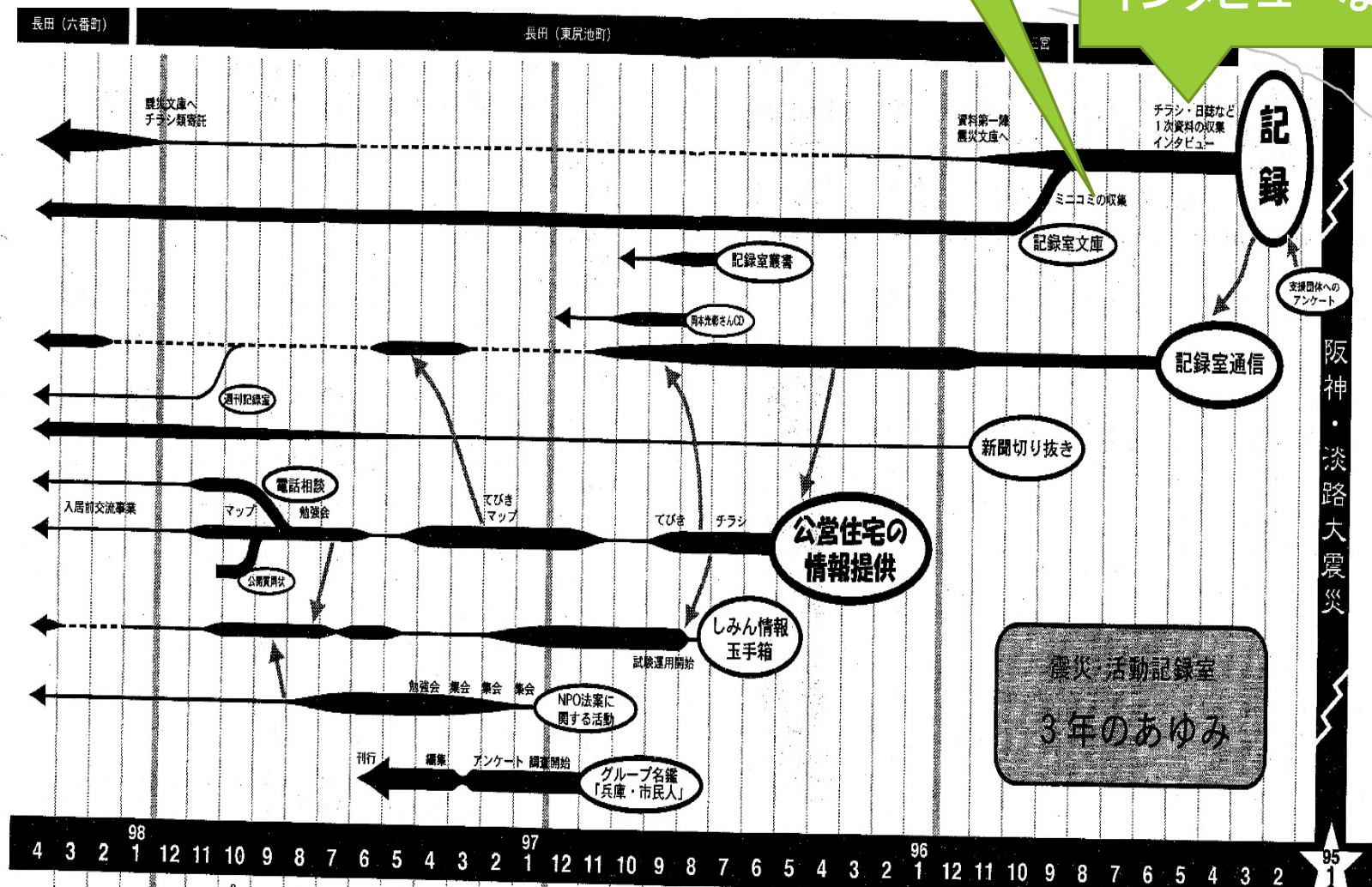
ボランティアの活動記録を残そう！

集まっちゃった！

1995年	1.17	午前5時46分、兵庫県南部地震発生	
	1.19	ボランティア団体(ボ):阪神大震災地元NGO救援連絡会議	
	2.13	(ボ):歴史資料保全情報ネットワーク(史料ネット)開設	
	3.27	(ボ):震災・活動記録室発足(地元NGO救援会議内)	
	4月	図書館関係(図):震災記録を残すライブラリアン・ネットワーク(ライブラリアン・ネット)結成	
	4.28	(図):神戸市立図書館、震災関連図書コーナー開設	
	5月	(図):神戸大学附属図書館震災文庫、本格的活動開始	
	5.13	(ボ):震災・活動記録室主催、「やったことを記録に残すボランティア大集会」	
	10.1	兵庫県(行政):兵庫県復興本部、阪神・淡路大震災に関する資料・記録の収集を開始、事業を(財)21世紀ひようご創造協会に業務委託	
	10.3	(図):神戸大学附属図書館震災文庫、一般公開	
	11.3	(図):兵庫県立図書館、フェニックス・ライブラリー開設	
1997年	1.17	(行政・ボ):人・街・ながた震災資料室開設	
	12.26	(行政):(財)阪神・淡路大震災 記念協会設立	
1998年	3.14	(ボ):震災・まちのアーカイブ設立(震災・活動記録室から)	
	4.1	(行政):阪神・淡路大震災記念協会が21世紀ひようご創造協会の収集事業を引き継ぐ	

# 震災・活動記録室

震災・まちのアーカイブ



## 概要

\* 設立 1998年3月

震災・活動記録室から資料保存部門  
が分かれる

\* 設立メンバー

歴史研究者・詩人・主婦・資料保存

＋活動・記録室メンバー

＋建築家など

\* 所在地

神戸市長田区東尻池町(～2016)

→ 神戸市垂水区へ





1998 年 3 月 14 日

被災地の記憶と記録を考える

## 震災・まちのアーカイブ 設立にあたって

震災発生から4度目の春をむかえます。このたび、私たちは、震災の記憶と記録を考えるグループ「震災・まちのアーカイブ」を設立しました。

阪神大震災は、安政江戸大地震、関東大震災と並ぶ大きな出来事です。「歴史地震」として、後世さまざまな角度から顧みられることだと思います。しかし、そのための未来の歴史資料、わずかに残された現在の震災一次資料は日々散逸の危機にさらされています。私たちは、資料を残すことを通じて、震災の記録を後世に伝える活動に取り組みたいと思います。

なぜ記録なのか。なぜ直接的な救援活動ではなく、記録を残すことなのか。

被災地では今なお震災の様々な問題が山積しています。それら問題群に個別に取り組むべきではないのかという思いにとらわれます。しかし、私たちはあえて一歩距離をとり、記録の保存を現場にしたいと思います。記録を残すことは、私たち自身がこれまでの検証し、よりよい未来を自分の手で作るために欠くことのできない作業です。今、震災一次資料の保存に取り組み震災の記録を残すことは、遠回りしているけれども、震災の引き起こした問題を根もとの部分で考える確実な方法のひとつだと信じます。

旗揚げにあたって「アーカイブ」といういささか聞きなれない言葉をかかげました。私たちは、この言葉を掲げることこそ、震災の問題を考えるもうひとつの鍵ではないかと考えています。アーカイブ（英語では Archives アーカイヴズ、ドイツ語では Archiv アルヒーフ、フランス語では Archives アルシーヴ）とは、もともとは、史料そのもの、ないしは史料群をさす言葉ですが、同時に史料を集める機関（史料館・文書館など）を意味する言葉でもあります。ヨーロッパやアメリカでは、国立や州立、市立のアーカイブが歴史的に定着し、古文書や行政文書が保存されることで、歴史研究や情報公開など市民社会の形成に大きく寄与してきました。しかし、被災地の足元を見ると、アーカイブは存在するのでしょうか。被災した一人ひとりが、自らの記憶をたどりながら、様々な記録を検証することのできる場所。震災の問題を考えるためには、そのような場が必要であるという思いから「アーカイブ」という言葉を選びました。

そして、アーカイブが「まち」にあるということ。行政や学者・研究者だけが利用するのではなく、まさに震災を体験した私たち自身が、あるいはいつか現れる未来の誰かが、自らの記録を、このまちの中で残してゆく。アーカイブがまちの中にあることこそが、私たちが歴史を語り継ぐ鍵ではないかと思っています。私たちのささやかな集まりが、その一つのきっかけになれば、と考えています。

具体的な活動としては、当面次のようなことを考えています。

(1) 震災一次資料に関する調査・保存・整理を行います。私たち「震災・まちのアーカイブ」は、「震災・活動記録室」の収集した震災ボランティアの一次資料を引き継ぎます。引き継いだ資料を整理し保存する。また、被災地における震災一次資料の保存状況を調査する。そのなかから、まだ十分確立されていない震災一次資料の保存・整理の方法について考えてゆきたいと思っています。

**記録を残すこととは、「私たち自身がこれまでを検証し、よりよい未来を自分の手で作るために欠くことのできない作業」です。今、震災一次資料の保存に取り組み震災の記録を残すことは、遠回りしているけれども、震災の引き起こした問題を根もとの部分で考える確実な方法のひとつだと信じます。**

それにしても、と思います。「被災地の記憶と記録を考える」とはなんと難しい課題か、と。出来事は誰かが記憶し、何度も思い起こしながら表現されなくては、沈黙に閉ざされてしまいます。記憶することとは、深い沈黙に思いを寄せる精神のあり方。私たちが、記憶や記録を考える時、同時に沈黙に向き合っていることを忘れてはならないと思います。沈黙の深さと重さを心に刻み、そこから記録の問題を考えること。その作業を、一つの限定された地域の問題としてではなく、様々な地域や歴史の広がりや念頭に置いて行うこと。私たち自身の姿勢が問われているように感じています。

震災から3年、いささか出遅れたささやかなスタートですが、志は高く、そして一歩づつ地道に歩くことから始めたいと思います。

被災地の記憶と記録を考える

## 震災・まちのアーカイブ

The people's earthquake archives

T653-0022 神戸市長田区東尻池町 1-11-4 神港金屬㈱内

Tel 078-681-6231 078-681-6232

お知らせとお願い

- 上記の趣旨に賛同される方、是非会員として私たちの活動に加わってください。
- 今のところ、週1回活動しています（第2・第4土曜日と、第1・第3週の平日）。
- 資金ゼロ、市民の手弁当の活動です。賛助会員になっていただけるとありがたく存じます。個人1口1千円、法人1口1万円をお願いします。振込先：さくら銀行長田支店(曾)6917717
- お問い合わせは、幸村範江 078-781-8891 「震災・まちのアーカイブ 代表・幸村範江」  
寺田匡宏 0797-22-5288 までお願いします。



# 震災・まちのアーカイブの設立

- 1) 震災一次資料に関する調査・保存・整理  
— 「震災・活動記録室」収集した  
震災ボランティア資料の引継ぎ
- 2) 被災地での「まちのアーカイブ」づくり  
— 資料を生み出した人・機関が自ら  
保存していくお手伝い
- 3) 被災地の記憶と記録を考える

◆アーカイブとは  
「自らの記憶をたどりながら、様々な  
記録を検証する  
場所」

◆「まち」にあること  
私たちが歴史を語り  
継ぐ鍵





# 活動

□震災資料の収集・整理・保存

□発信

→『瓦版 なまず』/冊子

→カフェ/読書会など

□展示\*

□東日本大震災とのかかわり



## □資料整理 ー中央区ボランティア資料



# 中央区ボランティア資料目録

ARCHIVE-目録 - Microsoft Internet Explorer

アドレス G:\IMAGE\ARCHIVE.htm

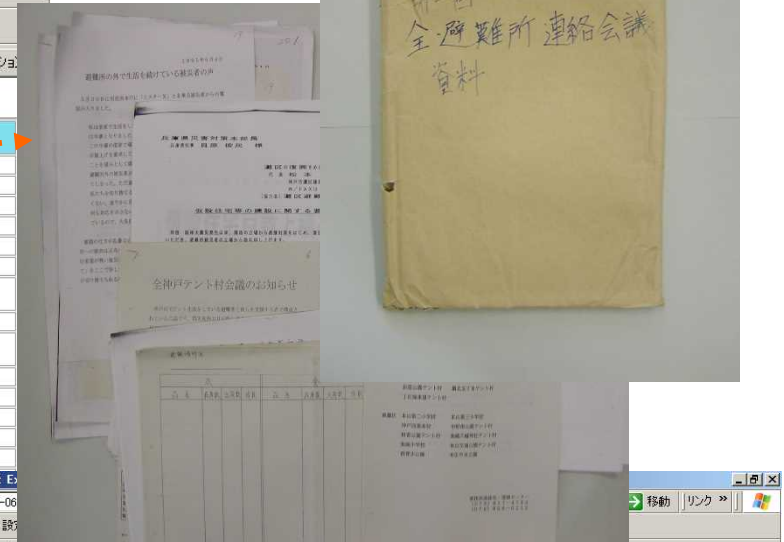
Google 設定 ファイル(E) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

Norton 詐欺サイトの監視がオンです

## 震災・まちのアーカイブ所蔵資料目録

番号	表題	文書 リンク	写真 リンク	年月日	作成者	形態	数	保管 場所	備考
1	ハートまぐし隊(避難所別報告書)		img	1995年2月3日	ハートまぐし隊	クリップ止め	1	91枚	倉山仮設、兵庫社会保険センター他
2	ハートまぐし隊 避難所別感想文集		img	1995年3月4日	ハートまぐし隊	B6 ひもとじ	1	413枚	
3	ハートまぐし隊 避難所リサーチ		img	(1995年2月-3月)	ハートまぐし隊	B6 ひもとじ	1	99枚	
4	食に関するアンケート		img	-	-	B4 ひもとじ	1		表紙はとれていて 避難所のもの59枚+表裏紙
5	仮設住宅要望書 原稿 5/23(火)		img	1995年5月24日	中央区ボランティア	袋	1	60枚+コピー12枚	
6	第1回全避難所連絡会議資料	doc	img	1995年5-6月頃	情報センター	袋	1		詳細目録あり
7	追悼そして復興 こうべ海の盆踊り出店要項		img	1995年7月7日	こうべ海の盆踊り出店事務局	ホッチキス止め ひもとじ A4	1	9枚	
8	外国人地震情報センター活動報告書		img	1995年6月30日	外国人地震情報センター	A4 冊子	1	P.12	
9	“エールソーネ”6世化) 人事ノート “今日一日の仕事ノート”		img	1995年3月31日-4月3日	-	ノート	1		
10	(各避難所状況の意見交換)		img	-	-	ノート	1		あすから行政の職員が入る
11	ボランティア 浅井保栄		img	1995年2月1日-3月5日	-	ノート	1		
12	池田ノート		img	-	-	ノート	1		10の内容と同じか
13	避難所別長期ボランティア派遣状況		img	-	-	ノート	1		
14	[ボランティア心得の]		img	-	-	ノート	1		
15	民間ボランティア名簿		img	1995年2月1日	中央区災害対策本部	A4 ファイル	1	A4 37枚他	資料番号06 - Microsoft Internet E
16	行政書類 新聞 情報	doc	img	-	-	A4 ファイル	1	クリアファイ	
17	マスク 資料	doc	img	-	中央区ボランティア	A4 ファイル	1	詳細目録あり	
18	たまたし班	doc	img	-	中央区ボランティア	A4 ファイル	1	クリアファイ	
19	マスク 資料	doc	img	-	中央区ボランティア	A4 ファイル	1	クリアファイ	
20	ハートまぐし隊 個人		img	1995年2月3日	中央区ボランティア	A4 ファイル	1		
21	災害時のメンタルヘルスについてのキ ーコンセプト		img	-	(National Institute of Mental Health)より作成	A4	1	プリントP	
22	その他の広報	doc	img	-	-	ファイル	1	くらし再建タ	
23	1月分 ボランティア名簿 2部		img	1月20日-1月31日	-	袋	1	A4 55枚	
24	(他ボランティア広報など)	doc	img	-	-	袋	1	笑いのボラ	
25	避難所もしくはそこに必要な労働力の 確保についてのアンケート		img	-	中央区避難所連絡会議	B4 ひもとじ	1	59枚	
26	マスクはよかけ隊 ノート		img	-	マスクはよかけ隊	ノート	1		

スタート 2 Microsoft Off... 2 Windows Exp... Adobe Photoshop 3 Microsoft Off... 4 Internet E... CAPS KANA



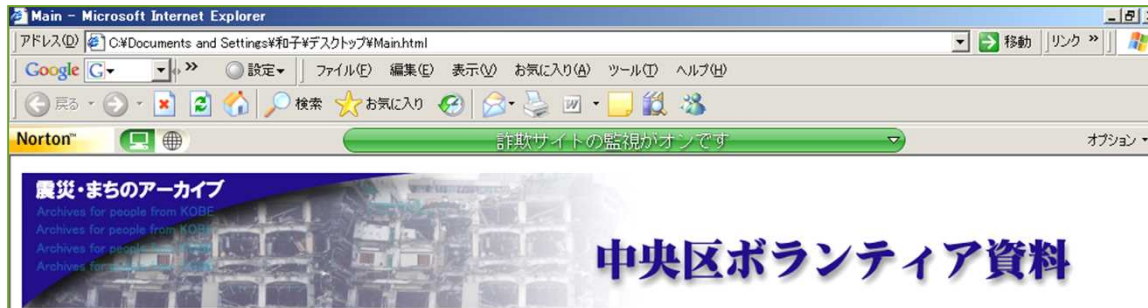
第1回全避難所連絡会議資料

番号	表題	年月日	作成者	形態	サイズ	数	備考
1	神戸市への申込書	1995年3月16日	東神戸地区テント村会議	ホッチキス止め	A4/2枚	1	
2	(避難所物資 管理表 フォーマット)	(1995年)	-	一紙	B4/4枚	1	
3	阪神大震災における避難者が都市公園に個人使用の 建築物を建てる正当な理由	1995年5月20日	情報センター	ホッチキス止め	B4/3枚	1	情報センター提案
4	テント生活 梅雨・夏対策マニュアル	1995年5月31日	情報センター	ホッチキス止め	B4/4枚	1	全神戸テント会議資料
5	全神戸テント村会議のお知らせ	1995年5月31日	情報センター	ホッチキス止め	B4/3枚	1	
6	全神戸テント村会議のお知らせ	1995年5月31日	情報センター	ホッチキス止め	A4/3枚	1	
7	神戸テント村の仮設工作物の4タイプ	1995年5月31日	情報センター 神戸大学塩崎研究 室	ホッチキス止め	B4/8枚	1	全神戸テント会議資料
8	仮設住宅第4次募集結果調査報告書	(1995年)	全神戸テント村会議	ホッチキス止め	B4/7枚	1	1995年5月26日 発表結果の後の調査
9	全神戸テント村一覧表	(1995年)	情報センター	ホッチキス止め	B4/8枚	1	東灘・灘・中央・兵庫・長田・須磨
10	署名 ポートアイランド第三仮設住宅出入口周辺にお ける歩道歩道調査に際して署名の署名	1995年5月1日	ポートアイランド第三仮設住宅住民	一紙	A3/4枚 A4/17枚	1	*署名用紙(神戸水上警察所長宛要請書 重ね写し)
11	仮設住宅等の建設に関する要望	1995年4月27日	灘区の復興をめざす住民の会	ホッチキス止め	B4/9枚	1	
12	第4次仮設住宅募集結果に基づく緊急要請	1995年	-	一紙	A4/1枚	1	
13	仮設住宅に関する問題点	1995年5月23日	情報センター	クリップ止め	A4/29枚	1	
14	全神戸避難所連絡会議開催の呼びかけ	1995年6月1日	情報センター	ホッチキス止め	A4/2枚	2	
15	(全神戸テント村会議 仮設住宅への緊急要請 新聞 記事コピー)	(1995年)	全神戸避難所連絡会議 全神戸テ ント村会議 情報センター	ホッチキス止め	A4/3枚	1	市議会議員・県議会議員・立候補者へ応急 仮設に関するアンケート含む
16	第4次仮設住宅募集結果に基づく全神戸避難所連絡 会議開催緊急要請書	1995年	(全神戸避難所連絡会議)	ホッチキス止め	A4/3枚	1	
17	(避難所募集 結果 統計)	(1995年)	-	ホッチキス止め	A4/2枚	1	
18	(避難所問題点 グラフ)	(1995年)	-	一紙	A4/3枚	1	
19	避難所の外で生活を続けている被災者の声	1995年6月4日	-	一紙	A4/1枚	2	
20	(全神戸テント村会議の決議から市長への要請)	1995年5月31日	全神戸テント村会議 河村宗太郎	一紙	B4/1枚	1	
21	神戸で生きるすべてのみなさんへ	(1995年)	神戸YMCA支援センター	一紙	B4/1枚	1	
22	作業員さん集まって	(1995年)	まつまのり園	一紙	B5/1枚	1	
23	(三宮周辺地図)	(1995年)	-	一紙	A3/4枚 白紙ノ ート2枚	1	重ね
24	神戸市への申込書	1995年5月24日	東神戸地区テント村会議	ホッチキス止め	B4/2枚	1	

スタート 2 Microsoft Off... 2 Windows Exp... Adobe Photoshop 3 Microsoft Off... 5 Internet E... CAPS KANA



# 中央区ボランティア資料画像



## 中央区ボランティア資料

このページについて

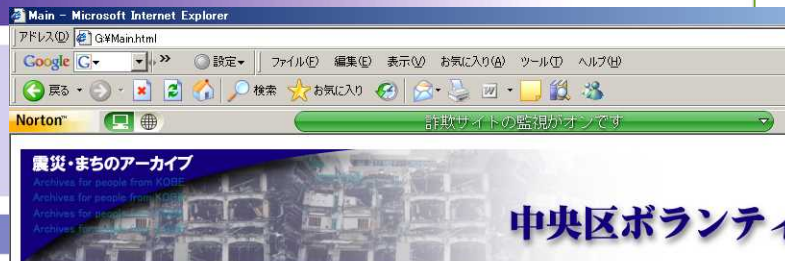
中央区ボランティア資料記述目録

中央区ボランティア資料目録

中央区ボランティアの活動

A cheetah runs. A cheetah gasps for breath.  
A bird sings. A deer runs away.  
A monkey gets away. A child smiles.  
The Earth quakes. A dolphin jumps.

インストール



## 中央区ボランティア

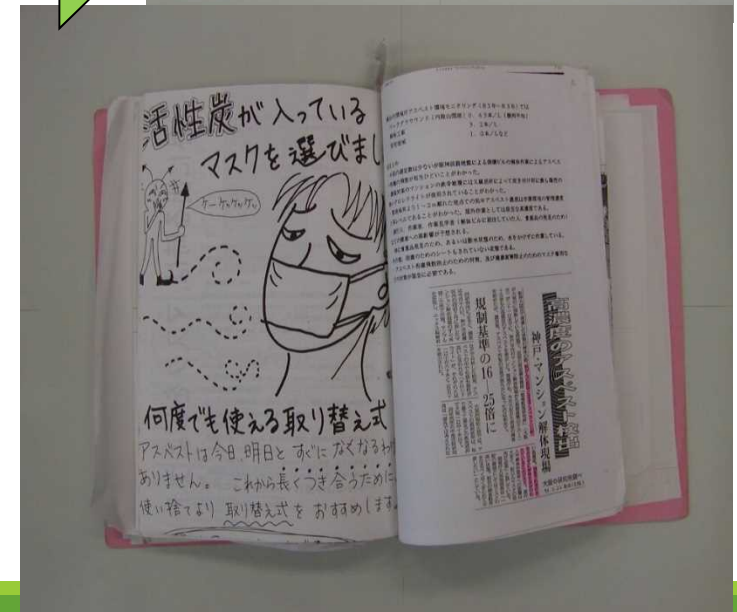
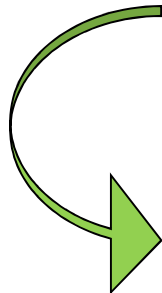
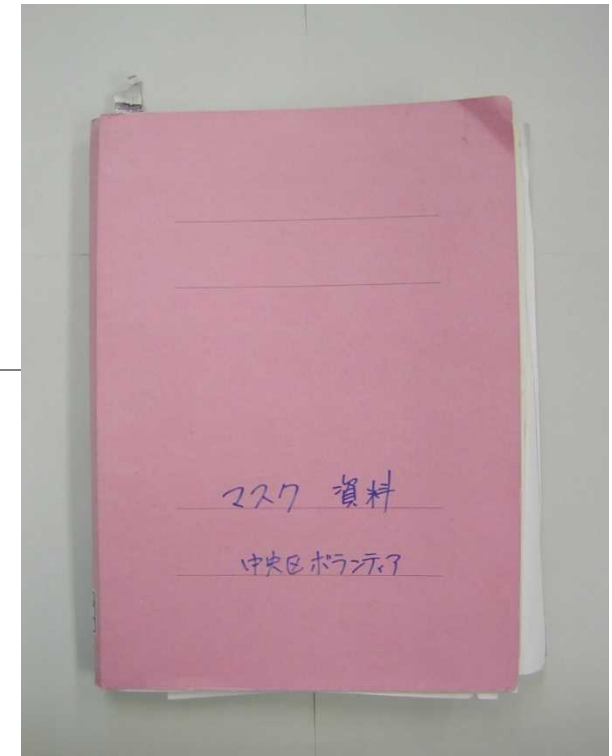
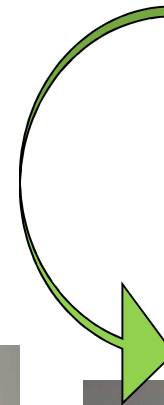
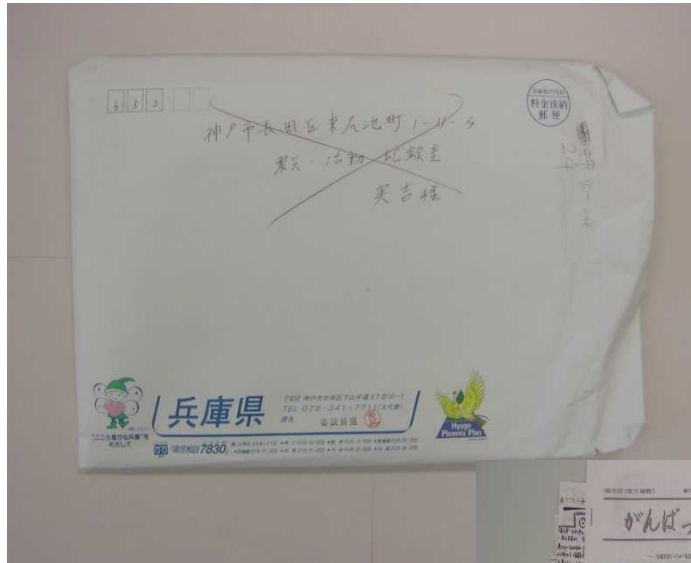
なんでもから版

仮設住宅に関する要望と現状報告



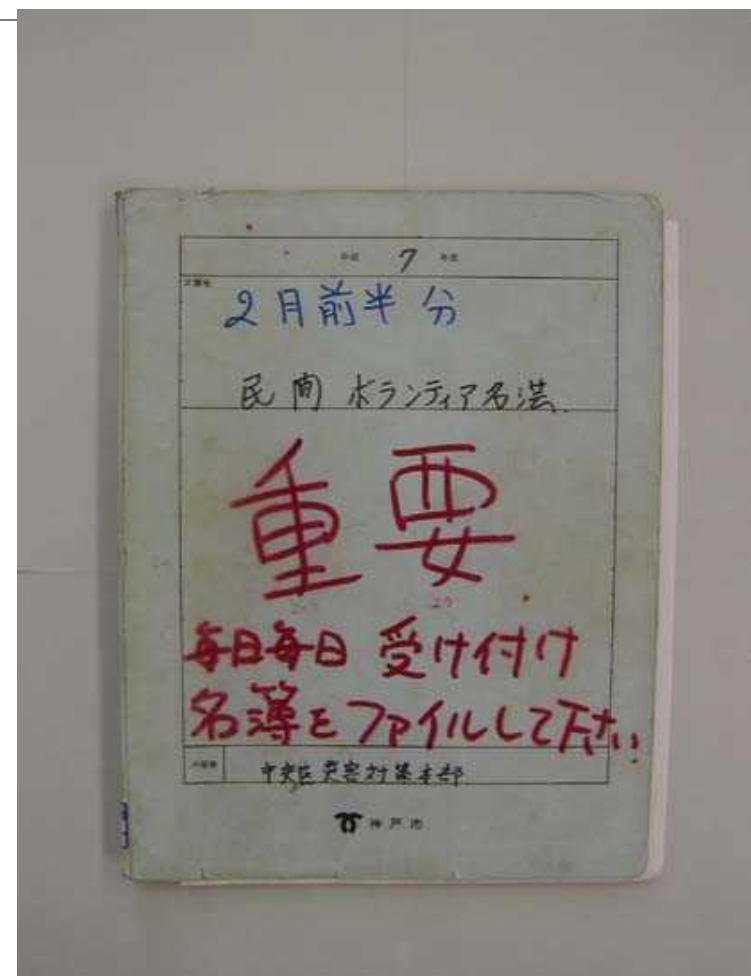
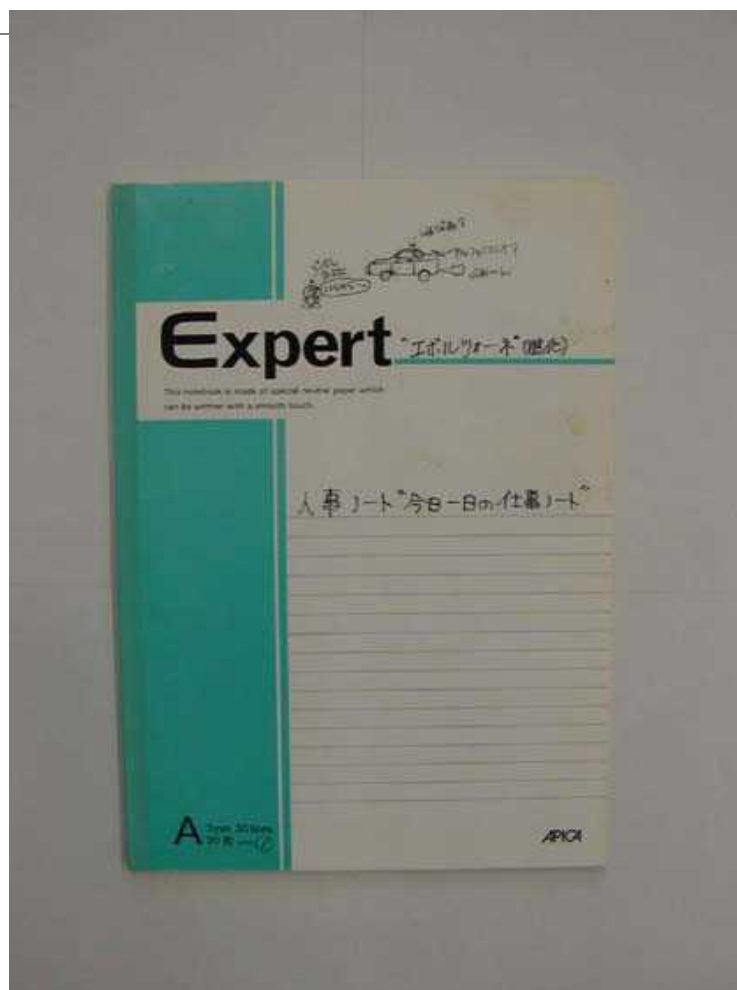
～ 先頭のページへ戻る ～

# 中央区ボランティア資料画像





## 中央区ボランティア資料



# 口発信

1998-7-2

1





瓦版なまず 第1号  
編集人 宇野 昭生  
発行人 宇村 龍江

震災・まちのアーカイブ  
〒653-0022 神戸市長田区東瓦池町 1-11-4 神港金貨館内 Tel 078-661-6231 Fax 078-661-6232

「長案第2避難所資料」についての報告

宇村 龍江

本庄町という小さな街が長田区にある。小さな街といっても、そこには、山階と丘陵を大切に育む人びとがひっそりと息づいている。

本庄町は須磨川との境目に在り、国道2号線の南側。密集する町工場と住宅が並ぶ地域である。南へ少し歩くと、すぐ海へ出られる。だが南といっても、西側の斜面の面が『瀬氏神社』の断崖になったり、海水浴場として知られているのにひきかえ、海岸線沿いや河川沿いに、ガスタンクなどが数箇所に立ち並んでいる。

藤山千代江さん（50歳）は、その本庄町5丁11で、ご主人と喫茶店を営んでいた。地震で自宅兼店舗は全壊。付近は火災にこそ見舞われなかったが、戦後まもなく復興された古い木造家屋が密集していたため、被害は大きく、死者も少なくなかった。

市瀬田山さん一家は近くの長案小学校に向かったが、もうそこは被災で中にも入れず、幸ひなく通りを隔てた私立灘田高校の体育館を長案第2避難所として使わせてもらうことになった。体育館だけに限定されたわけである。

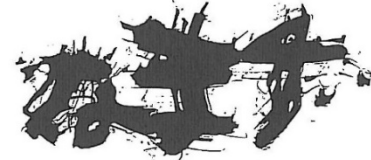


地図は1932年、本庄町付近の様子（『明治前期・昭和前期神戸市地図』調査所、1995年より）

B4

## サザエさんたちの呼びかけ

阪神大震災・瓦版なまず集成 1998-2008



### もう女性と子どもしか信用できない。

傷を負って駆けまわる彼らの光は、どこまで大地を包みこむことができるか。

震災・まちのアーカイブ

\* 瓦版なまず 1号～  
\* なまず合冊 ⇒ 『サザエさんたちの呼びかけ』

# 震災の記憶と記録を考える



# 「阪神大震災・記憶の＜分有＞のためのミュージアム構想 | 展」

「阪神大震災・記憶の＜分有＞  
のためのミュージアム構想 | 展」

日時：2005年1月14日～23日

場所：CAP HOUSE（旧神戸移住センター内）

元町駅から北へ徒歩12分

神戸市中央区山本通3-19-8

主催：[記憶・歴史・表現]フォー  
ラム。



歴史学研究者の寺田匡宏を代表として、建築史、社会学、民俗学の研究者や詩人、キュレーターなど13人からなる、記憶表現のあり方を研究するグループが実施。2002年、トヨタ財団の助成。

「棚へー<未来>の配達のために」 震災・まちのアーカイブ+笠原一人  
託された震災一次資料の展示 【ドキュメント資料+インスタレーション】





# 瓦版なまず第24号

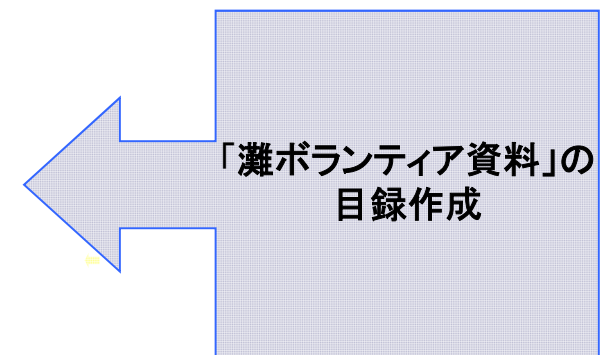
2008年3月

◆アーカイブとは  
「自らの記憶をたどりながら、  
様々な記録を検証する場所」  
＋

アーカイブする(動詞)の実践の場

アーカイブするとは

- ⇒ 収集する
- ⇒ 名づける(資料と認定)
- ⇒ 整理する ⇒ 閲覧・利用



# 東日本大震災を経て

□トークセッション 2014年1月13日  
→『記憶をつなぐー災厄の現場から』

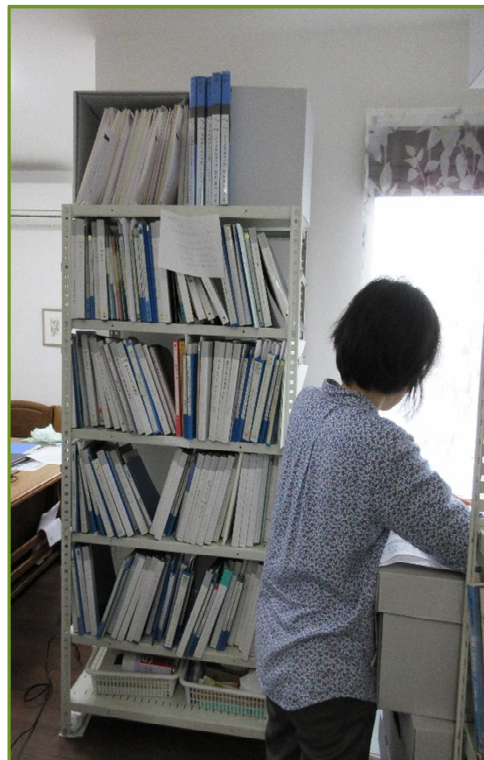
□福島県飯舘村訪問

□長谷川忠一氏資料の受け入れ



加川広重 巨大絵画が繋ぐ東北と神戸2014  
デザイン・クリエイティブセンター  
2014. 1.5～1.17

# 次の時代へ



	中性紙箱大	中性紙箱小	段ボール箱
震災・まちのアーカイブ	3	6	
震災・活動記録室	19	2	15
長谷川忠一氏資料	25	6	
ジュネシス	2		
三浦照子氏資料	1		
すたあと長田	1		
中央区ボランティア	1		
灘ボラ	4		
コミュニティ基金	1		
映像・DVD	1		
	58	14	15



□20年の活動のまとめ